

序 文

これは、高岡熊雄元総長と松岡孝児元本学部教授の文庫に蔵されていたパンフレット類を整理した所蔵・目録であり、全3分冊（海外編・日本編・欧文編）の第1分冊である。

旧植民地・中国関係のみならず、欧米・ロシア関係の貴重な資料が数多く含まれているので、ここに目録を刊行するはこびとなったことを喜びとするものである。

とりわけ、我妻義勝君を知るものにとっては感慨ひとしおというところであろう。

この資料を最初に目をとめたのは、北大着任後の長岡教授であり、夏休みを利用して助手、学生の手をかりて整理にあたり、大分類が行なわれた。その後この資料の整理は学部の懸案事項として引き継がれてきた。2年前、我妻君、桃野外喜男君、伊藤静子さんの3人により日常業務の合間をみて、旧植民地関係の仮目録がつくられ教官の研究に供した、その後、我妻君をこの関係資料の専任として体制をくみ、彼のなみなみならぬ熱意により、作業を進めてきた。ところがこの作業を半ばにして、桃野君ほかに2人とアラスカ、ランゲル山脈サンフォード山登山中、急変した天候のなかに遭難、桃野君とともに不帰の客となった。その後任として昨年10月1日、高崎仁雄君が医学部図書掛から配置換となってこられ、残された作業を完成、ここに我妻君の努力を実りあるものとした。思えばこの目録には、今は亡き2人も図書事務官の努力と志がこめられているのである。まことに非痛のきわみとしかいいようもない。

今回の刊行にあたって種々の御指導をいただいた長岡教授を初めとする諸先生、我妻君のご遺志を引ついで完成にこぎつけた堅田図書掛長初め関係職員各位にここにあらためて厚くお礼申し上げたい。

1980年7月

北大経済学部長

石 垣 博 美

高岡・松岡両博士を偲ぶ

北海道大学経済学部教授

長岡新吉

高岡熊雄・松岡孝児両博士が収集された日本の旧植民地・中国・東南アジア・欧米関係資料の目録がやっと公刊される運びになった。高岡博士収集の資料は、経済学部（当時は法文学部経済学科）が経済学関係図書充実のため、創立間もなくの1949年に和書2,592冊、洋書496冊と一緒に購入したものであり、松岡博士のそれは博士歿後の1957年に和書1271冊、洋書565冊とともに購入したものである。和洋書は早くに整理が終り、それぞれ高岡文庫、松岡文庫として利用に供されてきたが、厩大な小冊子から成る資料の一群は長いこと手付かずのまま書庫の一隅に眠っていたのである。北大着任後しばらく経ってこの資料の存在を知った私は、夏休みを利用し助手・学生の手を借りて整理に当たったが、その時は体中埃にまみれながら資料を大雑把に区分してダンボール箱に詰め替える作業を行うだけで精一杯であった。だから、いまは亡い我妻義勝さんをはじめとする学部図書室の皆さんの努力で資料目録が完成をみたことはいささか個人的な感慨がないわけではないのである。

さて、この目録は、高岡・松岡両博士が収集され経済学部が所蔵している資料のすべてではない。その一部、旧植民地以下さきに記した地域にかんする邦文の小冊子類のみである。一部といってもそれだけでも相当の数にのぼる。それでは、なぜか厩大な資料が両博士の手許に集められることになったのであろうか。いうまでもなく、それは両博士の学問と深く関係する。資料集収の動機や背景を知るために、両博士の人と学問をごく簡単に紹介しよう。

高岡熊雄博士は1871（明治4）年8月15日 島根県鹿足郡後田村（現津和野市）に生まれた。87年札幌農学校に入学。94年同校に農業経済学専攻が設けられると、第4年級学生であった博士は最初の同専攻学生となり、翌年同校を卒業した。卒業論文は「新植民地発達の順序」と題され、その一部は『国家学会雑誌』に掲載された。この論文は北海道入植農民の生長過程の実証的研究であったが96年母校の講師となり、翌年助教授に昇格し、1904年3年半のドイツ留学から帰国した時、博士の視野は国際的な拡がりをもつようになる。ボン大学での指導教授ゼーリングはドイツ内国植民学の権威であり、博士は北海道拓殖とドイツ内国植民とを対比した『日本内国植民論』を留学中の研究成果として独文でまとめ公刊するとともに、帰国後『普魯西内国植民制度』（1906年）を世に問うた。翌年、札幌農学校は東北帝国大学農科大学となる。帰国直後に教授に昇任した博士は農政学・植民学を担当することになったが、その後も1922-23年の欧米視察旅行後の『ブラジル移民研究』（1925年）

にみられるように、移民ないし植民問題に一貫した学問的関心をもちつづけ、満州事変（1931年）後は中国大陸へと眼を注ぐようになる。1933年日本学術振興会が満州移民問題を取り上げたとき、博士は上原徹三郎教授と共同で「満蒙移民機関の組織と監督」、「北支移民の研究」の二編の報告書を提出し、その間前後三回にわたって「満州」・中国を視察している。「満蒙移民問題」、「日本人移住地としてのブラジルと満蒙」、「日満人口統制に就いて」などの論考を『改造』その他の雑誌に発表したのもこの頃であった。いずれも、北海道帝国大学（1918年創立）の図書館長、農学部長、そして総長（1933-37年）に就任して学内行政の中樞で重責を果していた時期の論考である。総長辞任の翌年南洋庁の招きで内南洋を視察、その成果は集大成されて敗戦後の1954年に『ドイツ内南洋統治史論』として公けにされた。1961年12月29日歿享年91歳であった。

松岡孝児博士は1893（明治26）年11月16日北海道古宇郡泊村に生まれた。旭川中学校2年で仙台陸軍幼年学校そして士官学校へと進み、1914年歩兵少尉に任官したが、翌年依願休職。1916年東京外国語学校（仏語科）に入学して再出発することになる。京都帝国大学経済学部を1923年に卒業後研究者としての道を進み、34年母校京大の助教授、40年には教授に昇格した。博士の学問的関心は、国際的視野に立つ貨幣・金融制度の分析にあり、1936年に公刊された『金為替本位制の研究』はこの分野における画期的業績であった。金為替本位制が植民地・従属国に特徴的な貨幣制度であったことが物語るように、博士の主たる関心は、アフタリオン『貨幣・物価・為替論』の邦訳（1937年）が示す貨幣・金融理論におかれるかたわら、植民地・半植民地の貨幣・金融制度の実証的研究にも強く傾斜していた。『仏領印度支那の幣制と金融事情』（1942年）は博士のそうした学問的関心の所産であった。博士はその間しばしば実情視察のため日本を離れている。1936年に中国、「満州」へ、41年再度中国へ、そして同年にはタイ・仏領インドシナへも足をのばした。「世界大戦前の日本、朝鮮及び満州の金為替本位制」など多数の論考がこの時期の京大の『経済論叢』に発表されている。敗戦直後の1946年に京大を辞任。1953年請われて本学経済学部教授に就任された。1956年12月14日歿、享年63歳。歿年の5月に出版されたアンドレ・トウゼー『印度支那貨幣制度の研究』は博士最後の訳業であった。

以上は、この資料目録につながりをもつかぎりでの高岡・松岡両博士の学問の、しかもそのごく一端にすぎない。紹介は簡単であったが、ともあれこうした学問的生涯のなかで、いま整理されて利用に供せられる龐大な資料が集積されてきたのであった。

近年とみに盛んになりつつある旧植民地研究、アジア史研究の気運のなかで、国立国会図書館、アジア経済研究所などさまざまな機関から同種の資料目録が刊行されている。本学においても5年前に『北海道大学附属図書館所蔵・旧外地関係資料目録』が刊行された。それには経済学部が購入し附属図書館に移管した関係資料および経済学部資料室の関係資料も掲載されている。だが、高岡・松岡両

博士の資料はない。この新しい目録が上記『目録』の欠を補いながら同学の士に広く活用されることを日本帝国主義史研究にたずされる一人として強く希望してやまない。

凡

例

1. この目録には、北海道大学経済学部（高岡熊雄・松岡孝児 文庫）が所蔵する。日本の旧植民地、インドシナ・南洋諸島、中国、ロシア、欧米、中南米、その他の地域関係の資料を収録した。
2. この目録における関係資料収録の範囲は次の通りである。
 - ・ 明治以降昭和20年までの期間に、上記諸地域について書かれたパンフレット、雑誌、地図等の資料。
3. 資料は下記の基準に従い、「朝鮮」「台湾」「満州・関東州」「中国」「インドシナ・南洋諸島」「ロシア」「欧米」「中南米」「その他の地域」の9篇に分けた。
 - ・ 上記諸地域を対象とした出版物は、出版地に拘りなくその地域にいれた。
4. この目録では、各篇とも資料を8項目に分類し、項目によってはさらに細分した。細目は地域により若干の差違がある。
 - ・ 項目あるいは細目内の配列は著編者名のアルファベット順（ヘボン式）としたが、同一著編者のなかは書名順である。
 - ・ 国名及び人名は原綴によって記入されている場合は原綴のアルファベット順とし、その他は国名及び人名をローマ字読みのアルファベット順（ヘボン式）とした。
5. 記入事項は文献番号、著編者、書名、出版地、出版者、出版年、頁数または冊数、大きさ、叢書名、注記（内容注記、原書名等）、請求番号の順に記した。
 - ・ 出版者は編者と同一の場合は省略されている。
 - ・ 出版地、出版者、出版年の不明のものには n・p n・d と記してある。
 - ・ 南満州鉄道株式会社の略号として満鉄を用いた。
6. 索引は各篇の総合索引とし、著編者、書名の索引を本文の末尾に付した。
 - ・ 共著者名、訳者名、叢書名、その他報告書、調査書などの団体出版物は、なるべく執筆者名調査者名からも副出するよう努めたが、なお不完全である。

凡 例

1. この目録には、北海道大学経済学部が所蔵する高岡熊雄・松岡孝児文庫のうち日本関係の資料を収録した。
2. 収録資料の範囲は次の通りである。
 - ・ パンフレット、雑誌、地図等日本関係の資料一切。
 - ・ 時期的には明治以降昭和20年までに刊行されたものが大半を占め、一部昭和30年代も含む。
3. この目録では本州・四国・九州篇と北海道篇に分け、各篇を主題別分類し、項目によってさらに細分した。
 - ・ 項目あるいは細目内の配列は著編者名のアルファベット順（ヘボン式）としたが、同一著編者のなかは書名順である。
4. 記入事項は文献番号、著編者、書名、出版地、出版者、出版年、頁数または冊数、大きさ、叢書名、注記（内容注記、原書名等）、請求番号の順に記した。
 - ・ 出版者は編者と同一の場合は省略した。
 - ・ 出版地、出版者、出版年の不明のものはn・p, n・d と記した。
5. 索引は総合索引とし、著編者、書名の索引を本文の末尾に付した。
 - ・ 共著者名、訳者名、叢書名その他報告書、調査書などの団体出版物はなるべく執筆者名、調査者名からも副出するよう努めたが、なお不完全である。

凡 例

1. この目録は北海道大学経済学部所属 高岡・松岡旧蔵パンフレット目録全3分冊（海外編・日本編・欧文編）の第3分冊欧文編である。
2. 収録資料の大半は高岡熊雄博士旧蔵のものである。
3. 収録資料は主としてパンフレット類であるが、雑誌・地図等も含まれている。
4. 資料は主題別に分類し、分類のなかは、標目（主として著者・編者）のアルファベット順に配列した。
5. 記入事項は文献番号・標目・書名・出版地・出版者・出版年・頁数（冊数）・大きさ・叢書注記・一般注記・内容注記・請求番号の順である。
6. 巻末に著者名索引と書名索引を付した。